

東京支部秋の例会

昭和五十五年十月二日
富士山麓周遊

本日は幸なことに好天に恵れて、御元氣な会員約四十名を乗せた豪華バスは定刻九時例の新宿駅前の集合点を出発、お互い愉快な談笑の内に途中足柄ICで少憩十二時



過ぎに名勝白糸の滝に到着した。こゝで一時間半の休憩となり先ずバスターミナル真前の食堂で準備された御食事をゆつくりと頂戴それから標示に従い折れ曲った幾十段かの石段を降り大小の石ころ一杯の川原に下りると川上に幅広の豪壮な滝が目についた。初め白糸の滝と言うからには細い滝の群成

かと想像していたが実際は日光の湯の湖を母体とする湯滝を思わせる程の水量があった。その滝壺の前で全員の記念写真を撮った後バスターミナルに引返し土産物屋を覗き一時半出発、次の予定花鳥山脈は花の季節外れとあって割愛、左窓に曾遊の本栖湖、精進湖、西湖の姿を回想しながら名勝風穴を過ぎ、やがて頂上に一線を引いたように偏平に見える冠雪の富士の頂上の美形を車窓の或は右に或は左に眺め乍らハイウ

エイは愈々樹海に入る。登山ハイウェイ開通の為に切り開かれた沿道の樹々は今も無数に折れたり倒れたり無惨な姿は私が十四年前に登った時と同じで既に白骨化したもの累々流石に四合目あたりの風雪の猛威を肌と感じさせられた。五合目終点での見物時間は僅か二十分、大急ぎで地肌を雪を冠った頂上の姿を指呼の間に眺め小御岳神社に拝礼、命運の長久を祈願、傍らの見晴らし台に登る。そこから俯瞰する下界までの樹海の緑のスロープの雄大且つ渺々たる景観は恐らく富士山ならではの圧巻と言えよう。

慾を言えば馬に乗って少し五合目の裾を漫步する時間が欲しかった。又十四年前の事になりますがその頃は富士スバルラインが開通して間もなかったせいか土産物屋も食堂も木造土間の素朴さで、おでん屋の粗末なテーブルを囲んで、ぐらゝ煮える「おでん」を食べた時の美味しさが当日外気の冷めなかったせいもあるが今も忘れられない。二十分は瞬く間に過ぎ十五時二十分バスは河口湖に向い下山、湖畔で少憩の後大月から中央高速道を途中相模湖ICで少憩し

申込順名簿

西川	政一	菊地	輝男
同	伴	同	伴
齊藤	昂吉	藤沢	義夫
煙石	隼人	請川	耿
加藤	福雄	同	伴
田代	義雄	鳴内	桃枝
安藤	浄	山岡	義美
石田	俊一	池田	文雄
宗	真足	同	伴
梶川	増太郎	有光	栄一郎
同	伴	大松	康祐
広野	敬吾	小島	實
芦原	有一	同	伴
塩津	均	山地	保
同	伴	荒木	從繩
同	伴	田辺	ます子

ただけで十八時過ぎ全員無事で新宿に帰着した。そこで御土産の早生お蜜柑を頂戴一日の清遊を了へ夫々家路についた。お労れさま。今回は新年会まで皆様お健かに。(藤沢記)

哀悼

「久琢磨先輩の死を悼む」

三木秀介



いつまでもお元気でいてほしかった久先輩が八十五才を一期として遂に永眠され再びその警咳に接することが出来なくなりましたことはまことに悲しく痛恨に堪えませぬ。

久先輩が神戸高商を卒業して鈴木商店に入社された大正八年より今日迄六十有余年の永きに亘り薫陶をうけた私の思い出は走馬灯の如く次から次へ去来いたします。中山手の済美寮で相撲を教えてもらったのも先輩です。在学中は相撲部の主将として活躍され神戸高商相撲部の黄金時代の基礎を築かれました。学生相撲発展に寄与された功績は実に大なるものがあり

たえておられた様です。

たま／＼八月二十四日合気道の全国大会が大阪で開催され大東流の宗家としては是非出席せねばならぬと言つて無理を承知で終日長時間観戦されたため疲労も甚だしく発熱のため自宅に帰るや信頼する公文病院の院長先生の診断をうけ入院するようす、められましたので病室のあくのを待つて九月八日に入院して専心療養に努められましたが、だん／＼食欲もなくなり日々衰弱する様でしたので皆様が心配されていました。十月三十日容体急変して危篤の状態に陥り、三十一日九時十分薬石効なく既往症だった脳卒中のため大往生されたのであります。十一月二日神戸仏教会館で告別式が行われましたが合気道の門弟の方々を始め知友の皆様が多数御会葬下され厳肅裡に盛大に行われました。辰巳会からは日商の西川様を始め大畑幹事長、小倉幹事、下雅意様、井原様等が親しく御会葬下さいました事はまことに有難く御親戚一同に代り心から御礼を申し上げます。在天のみ靈安らかに冥されむことを静かに合掌して御冥福を祈ります。

嗚呼久オンチャンよ

寒月に従ひうつる星もなし

義一

■久琢磨氏の絶筆

冠省 たつみ第三十二号誌拝受いたしました。その中に朝日の朝日人誌上に出しました朝日航空部秘書を御転載下さいまして辱く御礼申し上げます。一寸場ちがいの感がありお叱かりを受けるか知れませんが、久のおんちゃんの事やお許し願いたいものです。

先号で鈴木商店退店の声明書を出して頂きました。一寸前後逆になります。この次は何故に三井物産を断つて鈴木商店に入店したかを書いていきます。これには大正七年夏一人で英領印度やビルマ等を経済調査旅行をしたかを書かなければならぬので大分長くなりますが原稿用紙で活字にしてくれていますので、この次の号には可成載せて頂き度いと思っております。小生と一番近しかった今村頼吉君が逝去されました由御冥福を祈ります。